



② 学校と地域が一体となって校区のあり方を検討することで、地域の実情に応じた活力ある学校づくりを目指します。

■現状と課題

少子化による、児童・生徒数の減少は、特に顕著な小規模校における教育効果の面での課題が指摘されています。

その一方で、宅地開発等による人口の増加が進み、施設面を含めた早急な対応が求められている大規模校の問題もあります。

将来を担う子どもたちや地域にとって、これからの学校はどうあるべきか、将来を見据えた地域全体での責任ある議論が必要とされています。



■基本的な考え方

学校と家庭と地域が一体になり、子どもたちの育みはもとより地域の将来を見据え、各地域の実情に応じた活力ある学校づくりを推進します。そのため、本市としては、保護者や地域の多様な思いを地域全体の意向として集約していく、「学校のあり方を考える検討組織」づくりを進め、そこで導き出された責任ある方向性を尊重するという基本姿勢に立っています。

さらに、国及び本市の学校の適正規模・配置の基準や、本市の公共施設全体に関する将来的な公共施設のあり方を示す「鳥取市公共施設の経営基本方針」に基づき、地域と情報共有し、連携を深めながら学校のあり方を検討します。

■具体的な取り組み

○教育検討組織の立ち上げ

地域で学校のあり方について議論する、「学校のあり方を考える検討組織」(校区単位)の立ち上げを支援します。

○校区審議会への諮問

校区に関する事項の調査・審議を鳥取市校区審議会へ諮問します。

■指標・目標値

指標名	地域で学校のあり方を考える検討組織の数		
指標の説明	市内全小学校44校区を対象とする検討組織を立ち上げた学校数		
実績値 (H26)	5校	目標値 (H32)	向上